順君のメール

順と健太は大の仲良しです。家が遠いので、放課後はあまり遊ぶことができませんが、クラスも同じ、小学校の頃からサッカーのスポーツ少年団に入っていて、中学校ではサッカー部で一緒にがんばっています。

夏休み間近のある日、ぼくたちのクラスでは、メールを打つ練習をしました。先生が、メールを送るときの約束をプロジェクタでスクリーンに映しました。

１．相手の名前と、自分の名前を必ず書く。
２．思いやりのある言葉で書く。
３．返事は気長に待つ。

（何だ、手紙とあまり変わらないな。）とぼくは思いました。
順君もぼくも家にパソコンがあるので、メール交換をしようと約束しました。次の日、順君とぼくはさっそくメールアドレスを交換して、家のパソコンからメールを送ってみることにしました。
ぼくは、大急ぎで家に帰り、順君からメールが届くのをわくわくしながら待ちました。初めてのメールが届いたときはうれしくて、お父さんやお母さんをはじめ家族全員に教えました。順君とますます仲良しになれたような気がしました。

テストメール
健太君へ
これで好きなときにメールで連絡が取れるね。夏休みは、遊ぶ約束や部活にいく約束もメールでしよう。
順より

夏休みに入ると、僕たちは、毎日のようにメールを使って、プールに行く約束や部活動にいく約束、遊ぶ約束などをしました。

夏休みに入って２０日ほどたったある日の午後、親戚のおじさんがやってきて、明日行われるベガルタ仙台のチケットを２枚くれました。おじさんとおばさんが行く予定だったのに、急な用事でいけなくなったからと、ベガルタ仙台ファンの健太君に持ってきてくれたのです。健太君も順君も、ベガルタ仙台は昇格に向けて大事な試合なのでぜひ応援に行きたい、と思っていたところです。（すごいや、順君に教えなくちゃ。明日はきびしい試合になりそうだから、一生懸命応援するぞ。）
ぼくは大急ぎでメールを送りました。

順君へ
明日のベガルタ仙台のチケットが手に入ったんだ。順君も応援に行きたがっていた試合だよ。明日１２時に泉中央駅で待ち合わせて一緒に行こう。返事待ってるよ。
健太より

順君の喜ぶ様子を想像しながら、ぼくは返事が来るのを待ちました。ところが順君からは夜になっても返事が来ません。（どうしたんだろう、いつもすぐ返事をくれるのに。）そう思いながら、ぼくは夜遅くまで何回もメールをチェックしました。

次の日の朝も順君からのメールは来ていませんでした。（なんだよ。順君。約束はメールでしようって言ってたくせに。何でメールをくれないんだ。）こんな時に限って、家の手伝いをさぼっていたことをお母さんに注意されるし、ぼくはだんだん腹が立ってきました。待ち合わせの時間を過ぎても順君からのメールは来ていません。ぼくは思わずいらいらした気持ちを順君へのメールにぶつけて送信してしまいました。

ばかやろう。遊ぶ約束はメールでしようって言ったのは順君だぞ。信じられないよ。せっかくベガルタのチケットが手に入ったのに。もう順君とメールなんかしないよ。

その日の夕方、（もうメールなんてしないぞ。）と思いながらも、ぼくはメールを開いてみました。そして、順君のメールを見てはっとしました。

健太君へ
　せっかくベガルタの試合に誘ってくれたのにごめんね。ぼくもいきたかったよ。きのう、福島のおばあちゃんがケガをしたって電話が入って、午後から家族でお見舞いに行ったんだ。夏休みだし明日は土曜日だからということになってそのまま泊まってきちゃったんだ。約束はメールでしようなんて言ったからこんなことになっちゃったんだね。本当にごめんね。
順より

健太は、順君のメールを何度も何度も読み返し、順君へメールを打ち始めました。

順君へ